

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-243427(P2010-243427A)

【公開日】平成22年10月28日(2010.10.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-043

【出願番号】特願2009-94664(P2009-94664)

【国際特許分類】

G 0 1 S 19/14 (2010.01)

G 0 1 S 19/35 (2010.01)

【F I】

G 0 1 S 5/14 5 3 1

G 0 1 S 5/14 5 5 3

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月31日(2012.1.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

従って、周波数調整用カウンタ19の分周比を100回のうち99回だけ $1 / 10000$ とし、残りの1回は $1 / 10001$ とするように調整用タイミングカウンタ22を介して制御すると、周波数調整用カウンタ19の出力周波数の平均値は約 1000.00000 009899Hz (= $1\text{kHz} + 9.899 \times 10^{-8}\text{Hz}$)となる。従って、これを1秒カウンタ20で分周して得られる1PPSの周波数は、 $1\text{Hz} + 9.899 \times 10^{-11}\text{Hz}$ となる。なお、端数まで考慮して、正しく1kHzの信号及び1PPS信号を得ることも可能である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

一方、late側のコード相關器のXOR回路43には、GPS受信機11が出力する1秒PNコードと、PNコード発生器36が生成する内部PNコードと、が入力される。ただし、PNコード発生器36からXOR回路43に入力される内部PNコードは、通常よりPNコードの0.5チップ分だけ位相が遅くなっている(後述のlate-PNコード)。XOR回路43からの信号は、移動平均演算器44に入力される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

第2分周器35は、第1分周器34から入力される1kHzの信号を $1 / 1000$ の分周比で分周して、1Hzの信号(1PPS信号)を生成する。第2分周器35が出力する1Hzの信号は、PNコード発生器36にリセット信号として出力される。また、第2分周

器 3 5 が 出力する信号は、 1 P P S 信号（基準タイミング信号）として第 2 出力端子 5 9 に 出力される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 5】

第 2 実施形態の基準周波数発生システム 7 1において、G P S 受信機 1 1 xは、位相比較器 9 4 から得られた遅延量をそのままデジタルデータ化し、P N コードに重畠して基準周波数発生装置 5 1 x 側へ出力しても良い。この場合、それを受信した基準周波数発生装置 5 1 x の側で、2 で除算する処理を行うことになる。